

自然生態園維持管理 (2014 年度)

白木 江都子 (自然遊学館わくわくクラブ)・岩崎 拓 (貝塚市立自然遊学館)

ボランティア 2,000 人の手による「自然生態園」(貝塚市二色「市民の森」内)では、毎月第 2 土曜日の 10:00~12:00、自然遊学館わくわくクラブ会員が中心になって、トンボの池の生きもの調査、4 つの区画の草刈りや草抜き、清掃などの維持管理作業を続けています。時には公園に散歩にいられた親子連れの方が仲間入りされることもあります。

昨年度は、アメリカザリガニの被害(ヤゴを食べる・池底や池の堤に穴をあけて漏水をおこす・水草を食べ尽くす)からトンボの池を守るために、辛抱強く 188 日間の池さらえをして、今年度は、アメリカザリガニ・メダカの姿を見ること無く終えることができました。トンボの池の漏水には手を焼いていますが、笠岡粘土を撒き、生きもの調査時には底を攪拌するようにしています。

池さらえ後の池に、極端な生物種数増加は見られませんが、ヤゴはかなり戻ってきました。自然遊学館わくわくクラブ員の森本静子さんが中心になって、期待を込めて水生生物調査を続けています。

<作業日誌>

2014 年 4 月 12 日、天候：晴れ、参加者：7 人

トンボの池の石積み部分に、漏水対策として粘土を詰める。

第 2 タンクの上の草刈り(カラスノエンドウ・カスマグサ・コメツブツメクサなど)をした。ハマエンドウが芽を出し始めている。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子

水生昆虫(幼虫)：アカネ属、ユスリカ科

水生昆虫(成虫)：コセアカアメンボ、マルミズムシ

備考：人手が足りなく、1 人×15 分の調査とした。アカネ属は、改修中で池の水を抜いていた昨秋に、成虫が飛来して産卵したものと推測される。コセアカアメンボはトンボの池で初記録。



コセアカアメンボ

2014 年 5 月 10 日、天候：晴れ、参加者：8 人

刈り払い機によってバッタの原っぱを部分刈りした。刈り残した部分は鎌で刈る。

海辺の植物ブロックではハマヒルガオが開花しピンクの花が目立っている。コウボウムギは今まで葉のみだったが、今回初めて雌株の穂 1 株を見つけた。ハマボウフウは 4 株葉を広げていた。草抜き(カラスノエンドウ・ツキミマンテマ・コマツヨイグサ・アメリカフウロ・コメツブツメクサ・コメツブウマゴヤシ・ヘクソカズラ・アオカモジグサ・ボウムギ・ヒメコバンソウ・オッ

タチカタバミ・シバ・テリハノイバラ)

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：前田和子

水生昆虫（幼虫）：アカネ属、アメンボ科、チビゲンゴロウ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ヒメアメンボ、ケシカタビロアメンボ

水生動物：イシビル科、サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ

備考：改修後は基本的に2人×15分の採集とする。調査後に広葉樹落葉1袋弱を投入。



採集物の仕分け

2014年6月14日、天候：晴れ、参加者：8人

トンボの池の生きもの調査では、種数が少しずつ増えてきている。アカガエル科のオタマジャクシは、先月よく鳴いていたトノサマガエルの幼生だろうか。市民の森に遊びに来ていた親子連れの団体が、生きもの調査に興味を持ち、倉庫にあったヤゴのアクリル標本などで説明しながら一緒に作業をした。トンボの池の漏水対策のため、空石積の間に粘土を詰めた。5月中にアカネ属の羽化殻を75個体見つけたが、今日は全く見なかった。草抜きや草刈りをしたトンボの池の草を、公園内に積み上げているが、アンペライ・ショウブ・コガマが根付いていたので、ショウブのみトンボの池に植え付けた。

第二タンクの上の原っぱにモジズリが数本咲いた。

海辺の植物ブロックでは、5月の作業時にはハマボウフウが4株見つかったが、抜かれたのか2株しか見つからなかった。

バッタの原っぱと海辺の植物ブロックの草抜き、草刈りをした。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：江本玲子

水生昆虫（幼虫）：ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、アメンボ科、ユスリカ科、ヤチバエ科

水生昆虫（成虫）：ヒメアメンボ、コセアカアメンボ、ケシカタビロアメンボ、チャイロチビゲンゴロウ、キイロヒラタガムシ

水生動物：イシビル科、サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ、アカガエル科幼生

2014年7月12日、天候：晴れ、参加者：11人

2005年にトンボの池に移植したホタルイは、すぐに消えてしまったが、改修で池底を攪乱したせいか数多く再出現した。水の中には、ヨシ・コガマ・ショウブ、水際にはミソハギ・カサスゲ・アンペライ・タマガヤツリ・ボントクタデ・メリケンガヤツリ・カヤツリグサが生えている。

刈り払い機でバッタの原っぱ 2 箇所とドングリの森の草刈り（筋刈り）をしたが、ドングリの森では、約半分を刈り残す「生きものにやさしい」草刈りをした。

海辺の植物ブロックでは、ハマゴウの花が咲き始め、根元にはオオアレチノギクとコマツヨイグサがたくさん生えていたが、ハマゴウが密に繁茂しているので抜けなかった。コメツブツメクサ・コウライシバは鍬で剥ぎ取った。砂地だからだろうか、野猫のトイレになってしまっている。

岸和田市河合町カエルの郷で作った自然生態園用杭を、温室に運び込んだ。



ホタルイ

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：白木翠、森本静子

仕分け：湯浅幸子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：ギンヤンマ属、シオカラトンボ、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ヒメアメンボ、マルミズムシ、チャイロチビゲンゴロウ、キイロヒラタガムシ

水生動物：サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ、アカガエル科幼生

備考：トンボ羽化殻として、シオカラトンボとアカネ属、トンボ成虫として、ウスバキトンボとシオカラトンボを目撃

2014年7月30日、天候：晴れ、参加者：3人

トンボの池は渇水状態が続き、第一タンクも空っぽになったので、第二タンクの水を第一タンクへポンプアップし、その後、トンボの池へ注水した。水を短時間で移す時には「トンボの小橋」下の濾過材が邪魔になっているので、高橋館長にも手伝ってもらって土嚢袋 10 杯分を除去した。因みに、トンボの池の貯水量は、満水で 22 トン、第一タンクは 15 トン、第二タンクは 12 トンである。

2014年8月9日、天候：雨、作業中止

台風 11 号の影響により自然生態園作業は中止。トンボの池の水位は、70cm 超えを記録。

2014年8月31日、天候：晴れ、参加者1人

第一タンクからトンボの池へ2回注水、第一タンクは空になった。

2013年9月13日、天候：晴れ、参加者：19人

森康貴さんを講師にお招きして、「バッタの原っぱ」でバッタ調べを実施。10種類 61匹を採集。帰化種のアカハネオンブバッタも市民の森で初めて採集された。これまでの行事では 0～3 匹し

か採集されなかったチョウセンカマキリが 10 匹も採れ、孵化してからこれまでに餌が多かったと推測される。

トンボの池の生きもの調査では、クロスジギンヤンマのヤゴが 43 匹、小さくてギンヤンマかクロスジギンヤンマか分からないヤゴが 62 匹もいた。これまで記録のなかったホルバートカタビロアメンボを、中谷憲一さんが採集物の中から見つけ出し、同定してくださった。

午後からは自然生態園全体の草刈りと杭打ちをした。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子

仕分け：白木江都子、森康貴

水生昆虫（幼虫）：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、カタビロアメンボ科、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ケシカタビロアメンボ、ホルバートカタビロアメンボ、コマツモムシ（幼虫も）、マルミズムシ（幼虫も）、ハイイロゲンゴロウ、チャイロチビゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、ヒメガムシ（幼虫も）

水生動物：サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ

備考：カタビロアメンボ科の成虫の同定は中谷憲一



バッタの解説



クロスジギンヤンマの幼虫

2014年10月18日、天候：晴れ、参加者：8人

トンボの池の中のヨシ・コガマなどを間引き、ヨシの穂は刈り取り、池周辺のポントクタデ・コセンダングサを抜いた。

トンボの池中とドングリの森周囲の杭を打ち替える。

海辺の植物ブロックでは、ハマゴウがよく繁って飛び石が隠れてしまっているので、飛び石周辺のハマゴウを抜く。ハマゴウを抜くとその下に、コマツヨイグサ・ヘクソカズラがびっしり生えていた。外周柵の周りを重点的に草刈り・草抜きをした。

作業終了後、ドングリの森でテラニシアリツカコオロギを採集した。以前から石をめくって見つけていたトビイロシワアリの巣にいたものを、筆とフィルムケースを使ってようやくメス2個体の採集に成功した。



海辺の植物ブロックの草抜き

2014年11月8日、天候：晴れ、参加者：9人

トンボの池の生きもの調査では、いまだアメリカザリガニが見つかっていない。ギンヤンマのヤゴ10匹、クロスジギンヤンマは40匹採集される。今までに見つけていない藻類が見つかり、翌日、湯浅幸子さんによりシャジクモと同定された。

バッタの原っぱでは刈り払い機で筋状に部分的草刈りをした。

ドングリの森では、杭打ち替えとロープの補修をした。自然遊学館側ドングリの森にアベマキは5本あるが、海側のドングリの森にはアベマキがないことがわかった。

海辺の植物ブロックでは、コウライシバを伐根した。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

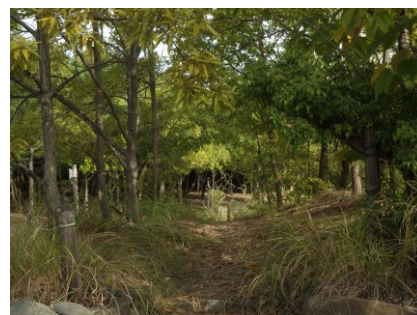
水生昆虫（幼虫）：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、カタビロアメンボ科、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ケシカタビロアメンボ、コマツモムシ、マルミズムシ、ハイイロゲンゴロウ、チャイロチビゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、ヒメガムシ

水生動物：サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ



シャジクモ



ドングリの森

2014年12月13日、天候：晴れ、参加者：6人

刈り払い機を使って、自然生態園全体の草刈りをした。

海辺の植物ブロックでは、ウバメガシなどを剪定し、ダンチクを間引き、ノイバラ・ハマゴウを抜き取った。特にハマゴウの根は深く大きく、全員大奮闘だった。

剪定にしても、草刈り草抜きにしても、その作業以上に後始末に時間や労力がかかり、閉館時間までに終わらなかった。



ハマゴウの根と茎

2015年1月10日、天候：晴れ、参加者：6人

トンボの池の生きもの調査では、ギンヤンマ・クロスジギンヤンマに混じって、アオモンイトトンボのヤゴ1匹を採集、昨年池さらえ後の新しい池に飛んできた成虫が卵を産み、それが孵化したのだろうか。

海辺の植物ブロック草抜きは、相変わらずネコの糞が臭い。保田先生が作業を手伝ってくださり、また古い標柱の下に巣を



ハマゴウの根を掘り返す

作っていたシロアリを、ヤマトシロアリと同定して下さった。
古くなって廃棄する杭など、廃材処理をした。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：フタバカゲロウ属、アオモンイトトンボ属、
クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、マル
ミズムシ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ、ハイイロゲンゴロウ

水生動物：イトミミズ科、ハブタエモノアラガイ



保田先生の手伝い

2015年2月14日、天候：晴れ、参加者10人

ドンダリの山周囲のヒガンバナなどに施肥。

海辺の植物ブロックは、毎回ハマゴウの伐根作業を続けてきたので、浜辺らしい雰囲気を取り戻してきた。ハマゴウ 3~5株を残し、小さい草本を抜いた（オランダミミナグサ・コマツヨイグサ・フラサバソウ・カタバミ・アメリカフウロ・カラスノエンドウ・イネ科 sp.）。前回抜いたハマゴウの根や枝を、掘り返した土の上に置いたのが効を奏したのか、ネコの糞が少なくなっていた。



ヒガンバナへの施肥

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：江本大地、森本静子

仕分け：岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：アオモンイトトンボ属、クロスジギンヤン
マ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ、ハイイロゲンゴロウ、チャ
イロチビゲンゴロウ

水生動物：サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ



水生生物の採集

2015年3月14日、天候：晴れ、参加者：12人

トンボの池の生きもの調査後、全員が仕分け作業を手伝った。

海辺の植物ブロックでは、イネ科やオランダミミナグサの芽生えと、フラサバソウ・スイカズラ・カラスノエンドウなどを抜き取り、さらにハマゴウを3株掘り起こした。その上、コウライシバを抜き取ったので海辺の風景が戻り、ハマヒルガオの芽生えもたくさん見られ、夏の花時が楽しみだ。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：奥田大介、森本静子、岩崎拓

仕分け：江本大地、江本玲子、岡田尚子、城野美姫子、

白木江都子、白木茂、堀真治、湯浅幸子

水生昆虫（幼虫）：アオモンイトトンボ属、クロスジギンヤン

マ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ、ハイイロゲンゴロウ、チャ

イロチビゲンゴロウ、キイロヒラタガムシ

水生動物：イトミミズ科、サカマキガイ、ハブタエモノアラガ

イ

備考：3人の合計の採集時間が30分になるように調整した。2014年3月の改修終了後、アメリカザリガニとメダカは未確認だった。



採集物の仕分けとカウント